1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 A棟)

事業所番号	0272400763		
法人名	有限会社 三浦建設		
事業所名	グループホーム福寿荘		
所在地	青森県北津軽郡鶴田町大字鶴田字柳元276-1		
自己評価作成日	平成22年8月15日	評価結果市町村受理日	平成 年 月 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホールは空間があり、利用者が寛ぎやすいため自室に閉じこもる事がない。3ヶ月に一回の誕生会を実施している。利用者が四季を忘れないように季節の行事を大切にしている。毎日職員がインストラクターになり、体操及びカラオケを楽しんでいる。(保育士資格者が多いため)巨大スクリーンとプロジェクターの設備があり、大画面での映画鑑賞ができ、利用者にも大変好評である。職員の挨拶は、笑顔ではっきりとをモットーであり、利用者にも好感を持たれている。庭園も広く、四季折々の草花や木が楽しめ、散歩コースには最適である。今年、庭園を一望できる場所に東屋を建設し、散歩の休憩場所等利用者の憩いの場となっている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先	http://www.aokaigojyouho.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0272400763&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成22年9月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周辺は田園風景が見られ、敷地内には庭園と休憩できる場所もあって利用者は天気の良い日には憩いの場として過ごしている。職員は理念のように明るく、笑顔に心掛けており、それが利用者の笑顔にもなり、利用者個々のペースを大切にサービス提供がされている。地域交流では町会行事のもちつきやお祭りに参加したり、夏祭りを町会住民にも協力いただき、様々な催し物を用意し、地域住民も含め多くの参加者が集い楽しんでいる。小学校体験学習の受入れ、保育所の遊戯披露などの交流も通して、地域とのつながりも大切に取組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

※複数ユニットがある場合、外部評価は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>事業所独自の理念を作成しており、朝・夕の申し送り時に唱和し、日々のケアに取り組む上で反映させている。廊下に掲示、パンフレットにも掲載している。</p>	<p>理念は地域密着型サービスの役割を反映して作成され、申し送りでの唱和や廊下掲示にて周知に取組まれることで、利用者個々のペースに合わせ、明るく笑顔を大切にしたサービス提供と地域住民との交流を実践されている。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地元町内会の餅つきの参加や町内会の祭り観覧、地元の床屋、美容院を活用している。地元小学校の体験学習の受け入れや地元保育所・園児の招待を通して交流を深めている。また、地域住民からの食材の提供も受けている。</p>	<p>利用者家族が近隣に住んでいることもあり、野菜等を持参したり、散歩や施設の敷地内にある自動販売機を利用するなど気軽にホームに立ち寄っている。施設主催の夏祭りには地域の方が準備に訪れ、地区の小学校の学習発表会、保育所のお遊戯会への招待、職場体験など町内会や民生委員等、地域の協力を得ながら交流を図っている。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>地元町内会共催の夏祭り時に手伝いをお願いする際に認知症の特性、接し方を職員が説明し、協力してもらっている。</p>	/	/
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>今年度から2カ月に1回開催しており、メンバーは積極的に参加しており、様々な情報を提供してくれている。利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>会議メンバーは意義を理解し、会議開催の1ヶ月位前より連絡することで参加配慮もされている。主に事業所行事、運営、外部評価報告などを中心に説明と意見交換をして、今後のサービス及び体制に活かしている。</p>	<p>評価結果による課題を、どのように改善に取り組むのか、「目標達成計画」にて整理し、説明と意見交換によるサービスの向上に期待したい。</p>
5	(4)	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>市町村担当者は運営推進会議のメンバーでもあり、会議開催時はもとより日頃から積極的に外部評価の結果、パンフレット、ホームのたより等を配布し、協力関係を築いている。</p>	<p>運営推進会議に市町村担当者及び地域包括支援センター職員が参加し、パンフレットや広報誌の配布、外部評価結果報告もしている。事業所運営等での疑問を市町村担当へ相談し、助言を得る等してサービス向上に活かしている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルを作成し、指定基準における禁止の対象となる具体的な行為等を学習会を通じて職員は理解しており、やむを得ない利用者には、家族の承諾書を書いて頂き、理由・方法・時間帯等を定めている。玄関先には、鍵をかけておらず、感知センサーを設置している。	身体拘束の内容及び弊害を理解し、行わない姿勢で取組んでいる。玄関や居室等日常的に出入りする所は施錠していない。外出傾向の利用者は見守りをしながら外出時は付き添い、地域住民等に協力を働きかけている。やむを得ず身体拘束を行う場合は理由、方法、実施時間帯などを明確にし、書面で家族等へ説明し、同意を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については内部研修(高齢者虐待防止法関連)や日々の支援を通じて理解を深めている。日常的に職員間で声がけし合う等虐待を未然に防ぐよう努めている。虐待を発見した時の報告は社長へ直接し、職員の虐待が明らかになった場合は免職とする取り決めをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で全職員を対象に学習機会を提供している。家族にも目がつくよう玄関先に資料を置いている。カンファレンス時にも可能性について話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書を基に利用者様や家族様に十分説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に要望を聞き、また、意見箱を設置し、それらを運営に反映させている。現在のところ、家族からの要望は出していない。	日々のコミュニケーションより利用者意見等が把握され、面会時に暮らしぶり等を家族に報告している。家族には運営推進会議メンバーとして外部者と話す機会も設けている。苦情受付体制は整備され、サービスに反映させる体制である。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の全体会議、月二回のミーティングを開き、遠慮のない意見を聞いている。必要に応じて、個人面談も実施している。	日々職員の意見把握に努め、職員個別面談の実施、ミーティング会議での検討、全職員対象の全体会議での話し合いにより、運営や勤務体制、サービスへ反映されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則はいつでも見れるよう休憩室に置いている。職員には、積極的に資格取得を勧めている。介護職員処遇改善交付金も活用している。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を作成し、職員に応じて研修会の参加を促している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県及び地区のグループホーム協会に加入しており、また、町独自のグループホーム協議会で研修・情報交換を行っている。資料等は回覧するなど全職員に周知している。			
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい環境に不安のある心を十分に理解するよう努め、職員との信頼関係を深められるよう不安なこと、要望等を傾聴している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まずは、家族の話しを十分に聞き、心配する心を十分に理解し、安心して入居させるよう不安・要望等を確認し、関係づくりに努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームは家庭の延長であり、今、何を必要としているかを見極め、時間のかかる、又は対応が困難なニーズに対して方策を家族と共に検討するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの生活歴を考慮し、旬の野菜の調理等各々が得意分野で力を発揮できるよう共同で生活している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	問題が生じた時連絡したり、利用者の様子についてはたよりの郵送、面会時の連絡ノート等を活用し、絆を大切に、共に支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人等の面会も歓迎し、馴染みの店(美容院、洋服店等)に出かけられるよう支援している。	利用者が知人等に電話をかける時に支援をしたり、馴染みの美容院やショッピングへ行く際に連絡調整したり、送迎や同行するなどの支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	軽作業、体操、散歩等を通じ、また孤立しないように個性を生かした作業分担を設け、利用者同士が支えあえる場面作りに努めている。利用者同士のトラブルが生じた際は即座に職員が仲裁に入るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された家族にも夏祭りの案内状を出す等、必要に応じて、相談や支援に努めている。		

自己 外部	項目	自己評価		外部評価		
		実践状況		実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向を日々の会話や仕草等を通じて把握するよう努めている。家族からの情報収集もしている。	日々の会話の中で、利用者個々の思いや意向を全職員が利用者の状況を見ながら把握するよう努めると共に、必要に応じて家族等からも情報収集を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から十分ヒアリングを行い、関係者からも話を聞き、これまでの暮らしを把握し、支援内容に活かしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントや毎日の生活の記録を通じて心身状態を観察し、それを職員間で共有し、把握するようになっている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は利用者の意見や要望を聞くように努め、月二回のカンファレンス時や担当者会議を利用し、全職員で課題等を話し合い、作成しており、個別具体的な内容になっている。	利用者の意向把握に努め、必要に応じて家族意見を反映し、担当者会議やカンファレンスにて話し合うことで介護計画を作成している。計画は定期的見直しや利用者状況変化に応じて計画期間中でも随時見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個々のADL状況を時系列にケースに記録している。また、日々の変化の対応、介護計画の見直しへの反映についても朝・夕の申し送り、利用者ノートを活用し、全職員が共有している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>推進会議のメンバーでもある地区の民生委員、老人クラブ会長、地域包括支援センター職員の協力を得て、利用者の個々の力を発揮できるよう支援している。</p>			
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用者、家族が希望するかかりつけ医がいる医療機関を受診できるよう支援している。専門医に受診が必要な時は家族と話し合い、受診できるようにしている。</p>	<p>利用者や家族が希望する医療機関への受診が行われている。急遽専門受診が必要と思われる際は家族へ相談し、了解を得て支援を行っている。受診結果は随時家族に報告し、情報共有をしている。</p>		
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護職員を2名配置しており、介護職員は24時間を通じていつでも利用者に関する医療的な問題を相談することができる。また、看護職員が付き添うことにより適切な受診を受ける事ができる。</p>			
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>医療機関の距離が近く定期的な面会を通じて、医師や看護師と情報交換し、家族とも連絡しあい、早期退院に向けてよう努めている。</p>			
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合や終末期のケアには対応していない旨を入居時に家族へ説明している。</p>	<p>重度化や終末期の対応はしておらず、入居時に家族に説明をしている。利用者の健康状態は日々確認が行われており、急変時には看護師の状態判断の上、必要に応じて協力病院等へ搬送することで、利用者や家族等と意思統一が図られている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時遠方にある家族には、家族が施設に駆けつけるまでの取り決めをしている。事故発生時のマニュアルを作成しており、消防署員による救急救命の講習を職員が受けており、急変時には対応ができています。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災等による避難訓練を日中・夜間問わず、月一回実施している。食料品は賞味期限の確認、飲料水は交換日を明記している。地区の民生委員等を通じて、協力体制を築いており、避難場所も確保されている。	避難訓練は日中と昼夜を想定して、毎月職員と利用者で実施されている。年2回は消防署及び業者も参加し、消火器等点検及び指導も受けている。災害に備え飲食、防寒等の備蓄し、地域住民、消防へ協力を働きかけている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーには十分配慮しており、また、利用者の人格を尊重し、「ちゃん付け」で呼ばないよう職員に周知している。居室前に表札を掲げているが、家族の同意を得ている。	毎日の申し送りや月1回の全体会議で利用者の接し方について話合っている。名字や名前をさん付で呼ぶことや失禁やトイレ誘導時は周囲に気付かれないよう配慮したり、利用者居室に入室する際はドアノックと声掛けを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物、足湯等に出かける際は本人の意思を尊重し、自己決定する場面を作っている。自己決定に文字盤を使うケースもあり、一人ひとりにあった場面づくりをしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先するのではなく、利用者を第一に考え、訴えがある時は後回しにせずその人にあった柔軟な支援を行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みに合わせ、着替えの際の洋服選びを尊重している。美容院（パーマ・髪染め）の送迎の支援を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは旬の素材を使い、色彩も鮮やかにするよう、また楽しめるように配慮している。個々の好き嫌いに応じて食事を提供している。食事は職員と一緒に摂っており、食べこぼしにもさりげなく対応している。	嗜好の把握がされ、苦手な食事は代替えを提供をしている。一緒にやりたいと思う方と食材の皮むきや食器の片付けなどを行っている。食事は職員も一緒に食べ、必要に応じて声掛けサポートしながら世間話で食事時間を楽しく過ごしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算はしていないが、食品ガイドブックを活用し、バランスのとれた食事を提供している。おやつ時や食事を通して、利用者の水分摂取量を把握している。麻痺のある方には食が進むよう介助用食器を使用するなどの配慮している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。義歯装着者にはポリデント洗浄を行い、個々の利用者に合わせ、見守り、声かけ、一部介助等の支援をしている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を用い、利用者個々の排泄リズムを十分考慮した上でトイレにて安全かつ安心して排泄できるよう支援している。	排泄チェック表にて利用者個別の排泄状況は把握され、トイレ誘導やおむつ使用は個々に応じて申し送りやカンファレンスにて話し合い、対応している。トイレ誘導等では周囲に気付かれないように配慮されている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の軽い体操、水分や乳製品を採るなど、メニューや食材を工夫している。安易に薬に頼らず、個々に合わせ、自然排便を促している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	基本週2回だが、その日によって入浴剤で変化をつけ、入浴を楽しめるよう工夫している。無理やり入浴させず、シャワー浴、足浴から促すなどの取り組みをしている。	入浴は週2回行っており、各ユニットの入浴日が異なるため、希望により別の日の利用も可能である。シャワーや足浴の実施や羞恥心に配慮し、希望により同性介護もされている。利用者のできることを把握し、必要時に声掛けと支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の適度な運動を通して安眠を促している。睡眠剤は家族、医療機関等と十分に検討したうえで服薬している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬品カードを個々のケースに入れ、職員間で共有している。薬局にお願いし、氏名、受診している科を薬袋に記入し、誤薬を防いでいる。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人ができる作業の役割分担をしている。体調、天気に配慮しながら、散歩、ドライブを楽しんでいる。また、個々の好きな歌でのカラオケ、大型スクリーンでのリクエストをとったビデオ鑑賞も楽しんでいる。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば、ショッピング、選挙投票等で外出支援をしている。	天気の良い日は散歩や事業所の庭園で過ごしたり、馴染みの美容院利用や買い物へ行くなど利用者個々に応じた支援をしている。ドライブ先も利用者の意向を取り入れ、外出には健康状態等を確認の上、車いすや送迎車を活用し、支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる利用者には少額だが所持させている。荘内のジュースの販売機や外出先での支払い時には買い物訓練を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が使いやすいように、また、プライバシーにも配慮し、電話は子機を利用してもらっている。手紙やはがきの代筆はないが、利用者あてのものは職員が代読している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しの強い日にはロールカーテンを使用し、快適な空間づくりに努めている。ホールには季節を感じさせる装飾をしている。トイレにはドアがあるもレースカーテンを下げ、個々のプライバシーの配慮を行っている。職員同士の会話も大きい声では話さないようにしている。	みんなが集うホールには、ソファ、椅子、テーブル、テレビ、畳も敷かれている所もあり、物音は騒がしくなく、室温も適温である。遠足の写真や季節の創作品なども飾られ、ホール窓から庭園も見ることができ、自由にくつろぐことができる空間となっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには畳二畳のスペースがあり、少人数での団らんができるよう配慮している。また、玄関にはベンチが置いてあり、利用者が一人になれる所がある。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室づくりは家族の協力を得て、仏壇、家具、茶碗、はし等使い慣れた物を持ち込み、家庭的な雰囲気を楽しんでいる。	馴染みの物の持ち込みを家族へ働きかけており、家族写真やテレビ、家具、仏壇などを持ち込みながら、本人が過ごしやすい居室づくりをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり、廊下等歩行時の不必要なものの撤去、見やすいトイレマークの掲示等できるだけ自立した生活が送れるように配慮している。			